

121108 マムシグサ

春、山地や平地の湿った林の中を歩いていると...

まるで「コブラ」のように“鎌首”をもたげている、何やら恐ろしげな植物に何度も出会いました。



その名は「マムシグサ」！！

第一印象で言えば「コブラグサ」ではないかと思うのですが...

どうやら、直立する太い「茎」のように見える部分にある“まだら模様”が「マムシ」の模様に似ているから、ということが命名の理由だそうです。（形状ではなかったのですね...）

薄暗い林床部をよく見ると、結構あちこちに生えていることに気づくのですが、どれもみな、好き勝手な方向を向いているのにも、何か不気味な感じがしました。

そして今、晩秋を迎えた薄暗く寂しげな林の中で...

真っ赤に熟した、異様に瑞々しい「マムシグサ」の実が...

写真 : 花期は4～6月で、花を包む“仏炎苞（ぶつえんほう）”が鎌首をもたげたコブラのように見えます。

写真 ・ : 花の後、実がではじめました。
緑色のトウモロコシみたいですね。

写真 ・ : 秋になると、緑色だった実が、上部から順に赤く色づき始めます。

写真 : 赤く熟した実がとれると...
下地の黒色も妙に毒々しい感じです。

写真 : やがて実をつけていた黒い芯の部分がしぼんできて、崩れ落ちてしまいます。

さて、毒蛇を連想させるだけでなく、毒々しい果実を突らせるこの「マムシグサ」ですが、果たして見かけ通り、有毒植物なのでしょうか？

そうなのです。有毒なのです！

特に球根や葉にはシュウ酸カルシウムの針状結晶が多く含まれており、食べると口中からのどに至るまで“激痛”がはしり、唾を飲み下すことすらできないほど...、だそうです。

それでは、薄暗い林床で、これでもかと言わんばかりに真っ赤に熟した実をアピールしても、有毒の実を野鳥が食べて（種を運んで）くれるのでしょうか？

どうやら野鳥は完熟した実を食べるそうです。

ただし、未熟な実には強烈な刺激があるようですので、口に入れることは控えた方が良さそうですね。













